

第21号

2012年 3月1日

○発行  
650-0004  
神戸市中央区中山手通  
7丁目25-38  
神戸真生塾広報誌編集係  
TEL (078) 341-5897  
FAX (078) 341-8239  
E-mail: kouhou@kbshinsei-  
.org  
○振替口座  
郵便振替01100-8-18680



# 噛むことの大切さ



神戸真生塾 評議員  
三木歯科診療所 院長  
**三木明**

ここ数十年、日本人の食生活は急激に変化しました。昔の食生活からは考えられないくらい柔らかい食べ物が増えたのです。現代の食べ物事情においては、調理方法の変化やスナック菓子、インスタント食品の増加などで、充分にまなくても飲み込んでしまうことができます。食べ物が増えただけで、その結果、最近の子どもたちは顎の発育が悪くなり、顎の中に歯がきれいに並ばなくなってしまうました。歯並びが悪くなると、唾液の流れが悪くなり、歯と歯の間に汚れが溜まりやすくなります。ハブラシなどが隅々にいきわたりにくくなり、一層口腔内が不潔になり虫歯になりやすくなるのです。成人においては、かむことにより充分に出るはずの唾液の分泌が悪くなることにより歯周病になるリスクが増えたのです。

- 一、よくかむこと、つまり顎や舌の筋肉をよく動かすことにより、唾液を作る唾液腺が刺激され、唾液の分泌が促進されます。
- 二、よくかむことにより食べものが小さく噛み砕かれ消化を助けます。唾液にはでんぷんを糖に変える消化酵素が含まれているのです。
- 三、食べ物は唾液によって柔らかくされ、ちょうどよい塊にして飲み込みやすくなります。
- 四、お口の中には数十億の常在細菌がすんでいます。細菌同士がバランスよく共生しています。唾液は、外来細菌の侵入を防ぐ役割を果たしています。
- 五、唾液は、頬や舌の粘膜が傷つけないように保護しています。
- 六、かむことにより、顎の筋肉や顔の筋肉が鍛えられ、顎顔面の発育がよくなります。
- 七、顎や顔の成長発育に役立ち、顎位といわれる上下の歯のかみ合わせが正しく保たれるために姿勢もよくなります。
- 八、よくかむことにより、脳を刺激し、脳細胞の働きがよくなり、脳の発達がよくなります。
- 九、唾液には、老化防止ホルモンや脳神経の働きを促す因子が含ま

れています。唾液中には、食べ物に含まれている有害物質、化学物質や発がん物質を解毒する大切な働きがあります。

唾液の分泌が少なくなると口臭もします。お口の中が乾燥すると唾液の働きも大切な働きである抗菌作用や自浄作用が十分発揮できま

せん。そうなる原因は驚くほど増殖して、口臭の原因になるのです。就寝時は唾液の分泌が少ないので、起床直後はお口の中が不快で口臭が強いことからもわかります。夜、しっかりとお口を清潔にしてから寝ることにより、朝起きた時の不快感は軽減します。

さて、今日の食事から一回にお口に入れる食べ物の量をやや少なめにし、三〇回以上かむことを試してみてください。おそらく十数回でお口の中はほぼ空っぽになっていることでしょう。いかに少ないのでみこんでしまっているか、よく分かります。

ゆっくり食事することにより、満腹中枢を刺激し食べ過ぎを防止します。早食いの人は満腹中枢が働くまでに多く食べてしまうので肥満傾向が強いのです。ダイエツトのためにもゆっくりしっかりと噛むことが大切なのです。

おしゃべりしながらよく笑い、楽しく食事することにより脳が活性化し、認知症の予防に役立つことが知られています。食物繊維の多い野菜やかみごたえのある魚

の干物、海藻などを多く食べる日本の伝統的な和食を見直すこともいいことかもしれません。

高齢者では喉の渇きを感じるものが少なくなるので、唾液の基になる水分を一日に一五〇〇CCくらい補給することも大切です。それもお茶やコーヒーではなく、お水を飲むことです。お茶などには利尿作用があるので、歩留りが悪いのと、唾液の分泌を抑制する働きがあるのでお口が渇き、それが口臭の原因になったりもします。

「水分補給にはお水！」と思っていてください。もちろん、食後のコーヒーやちよっと一服のお茶は決して悪いものではありませんし、嗜好品としてはなくてはならないものです。水分補給とは、口を湿らせる程度の少量のお水ではなく、一回にコップ一杯くらいのお水を飲むことです。就寝時には、枕元にお水を入れたペットボトルを置いて、いつでも水分補給ができるようにしておくことも必要でしょう。

かむことや唾液は、このように大変重要な役割を果たしています。年齢にかかわらず、よく噛んで楽しく食事をする習慣を身につけることが大切なのです。





《乳児院 真生乳児院》

Kちゃんと共に育ち合う

ひよこクラス 看護師 今野 直美



今回、私が担当しているひよこクラスのKちゃんを紹介したいと思います。

Kちゃんは二歳。笑顔のかわいい女の子です。生まれた時に染色体の欠損が見つかり、そのためか今のところ首が座っていません。色々な検査を受け、両耳難聴あり、乱視、遠視、血管奇形のためぼんやりとしか見えていないこと等が判明しました。身体が小さく1歳までは体調を崩しては入院するという生活を繰り返し返していましたが、徐々に体力もつき今では入院することもなくなり自力で回復できるよう

になりました。そんなKちゃんはお飯が大好きです。現在、幼児食をミキサーで刻んだ食事をしていきます。果物や味付けの濃いおかず、プリンやゼリー、ケーキ等の甘いものはおいしそうによく食べます。

Kちゃんの食べっぷりは介助している職員を幸せな気持ちにしてくれます。Kちゃん、いっぱい食べて大きくなつてね。

Kちゃんは今年1月よりひよこ保育園へ通園することが決まっています。これから補聴器をつけることになるためです。また、療育センターでのリハビリ



リも月二回行っています。その他、かかりつけの病院での定期受診（小児科、リハビリ、眼科、耳鼻科）や浸出性中耳炎のため耳鼻科の通院も継続中です。たくさんの通院があります。ご家族の方と職員とが一丸となってKちゃんへのびのびと育つてくれるように取り組んでいます。



そんなKちゃんと一緒に生活している三歳男児Kくん、二歳男児Tくん、

○歳女児Mちゃん、五歳女児Kちゃん。みんなKちゃんが大好きです。みんなテレビを見る時はKちゃんを取り囲んで見えています。Kちゃんに話しかける時はちゃんと耳元で話しかけ、耳元で歌を歌います。また、みんなで入浴する時はKちゃんの大好きな「かえるの歌」を歌います。Kちゃんは、うれしそうに表



情を見せてくれます。Kちゃん存在が他の子ども達のやさしさやおもいやりの心を育ててくれているように思います。

十二月に行われた本児のお誕生日会では、他クラスの三歳女児Kちゃんが絵本を読み、他の大きい子ども達は大きな声で「かえるの歌」と「どんぐりころころ」。「大きな栗の木の下で」を歌ってくれました。みんなの心が温かくなる素敵な誕生日会でした。出席されたお父さん、おばあちゃんも一生懸命本児を抱きしめておられました。

たくさんの試練を乗り越えてきたKちゃん。命つてすばらしいね。リハビリつらいかもしれないけど一緒にがんばっていきましょう。毎日楽しく過ご

そうね。おいしいご飯、いっぱい食べようね。いっぱい、いっぱい笑おうね。眼鏡や補聴器、慣れるまではつらいかもしれないけど、きつと世界が広がるはずだから一緒に乗り越えていこうね。Kちゃんにはたくさんの仲間がいるよ。みんなKちゃんが大好きだよ。まだまだ小さいKちゃんですが、命いっぱい輝かせて毎日過ごしています。





《児童養護施設 神戸真生塾》

『自立援助ホーム』、オープン

子供の家

今年三月一日、垂水区本多聞に、神戸市が「自立援助ホーム子供の家」を開設することになりました(全国で初となる公の施設)。そして、神戸真生塾が指定管理者として事業を運営することになりました。

児童自立生活援助事業として第二種社会福祉事業に位置づけられ、義務教育終了後二十歳までの児童が対象で男子六名、女子六名の計十二名定員でスタートします。

自立援助ホームの特徴としては、入居している子ども達が就労を条件とし、援助ホーム利用料の支払いをすることです。職員の主な仕事は、子ども達の就労についての相談・援助・指導をはじめ、日常生活・社会生活を営む為に必要な支援をしていくこととなります。また、自立に目途が付き、退所後も色々な相談やアドバイスをしていくことが大切となります。子ども達にとつてよき話し相手、大人としてのアドバイスを的確に伝え、子ども達が社会的自立を出来るよう縁の下の力持ちとして、ベテラン職員でスタートを切ります。

ホームで生活する子ども達の状況は様々ですが、どの子どもも安心して生活が出来る場所として、自立に向けて考え見詰め直し気楽に相談できる場所であり、社会に向けて出発してから何か困ったことがあれば問題解決の糸口を見つけに何度も戻って来ることが出来るホームとしてあり続けたいと考えています。

子ども達が社会の一員となるよう、子ども家庭センター、児童自立支援施設、児童養護施設及びハローワーク等の関連機関と連携を図り、地域の方々、就労先の企業、広報誌をご覧の皆様のご理解とご支援の手をお借りしながら、子ども達の早期自立に向けて焦らず着実に取り組んでいきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。(竹原 裕昭)



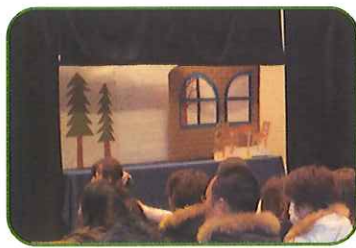
1Fが自立援助ホーム

クリスマス祝会



クリスマスは子ども達も一年のうちで最も楽しみにしている日の一つです。サンタさんからのプレゼントやイブに行われるお祝いのお食事会、そして皆様と共にイエスキリストのご降誕をお祝いする祝会。そのような日に、本年度もたくさんの方々の皆さまや関係機関の皆さま、お客様にお越しいただき、共にクリスマスを祝うことができましたことを感謝しております。

宿題を済ませてからなので時間は決してたくさんあるわけではありません。また時には子どもどうし喧嘩をしたり、ふざけすぎて叱られたりもしました。それでも何度も何度も練習を重ね、本番には堂々と舞台上立つことができました。聖誕劇や合奏のステージを終えた子ども達の姿を見て、皆で協力しあい、ひとつのことをやり遂げることは素敵なことだと改めて感じました。また、大勢のお客様たちの前でステージに立つことはとても緊張することですが、そのような経験が子ども達



も私たちの自信がなければと願っています。そして本年度は中学生の有志達で人形劇「靴屋のマルチン」にも挑戦しました。人の前に立つのが恥ずかしい年頃の中高生たちに「人形劇をしよう」と声をかけると、「えー!」という拒否反応があるのでと心配していましたが、そんな心配とは裏腹にたくさんのおもちゃたちが参加すると聞いてくれ、とても嬉

しく思いました。真生塾の一員として一人ひとりが活躍できることは喜ばしいことです。操り人形は糸が非常に絡まりやすく、ステージ上の狭いセットの中で動かすのはなかなか難しいものでした。また部活動や学習塾等、皆それぞれ忙しくしているなかでの練習です。しかし、さすが中高校生!やる時はきちんと集中し、上手に動かすことができ感心させられました。また本番ではステージ上に立たなかつた”声役”の子どもたちもいましたが、しっかりと感情をこめて台詞を言えるところもさすがだなあ、と感心させられました。今の幼児さんや小学生たちも、あと何年かすればこんな立派になるのかな・・・、と将来が楽しみです。最後になりましたが、教員合唱団の方々には素敵な歌のプレゼントを頂きました。きれいな歌声に合わせた手拍子で、会場全体が一体となれたように思います。毎年お越しいただき、感謝しております。このクリスマス祝会を通して私たち職員も子どもたちも、本当にたくさんの方々を支えられていることに改めて気づくことができました。これからも感謝の気持ちを持ち続けたいと思います。来年度も素敵なクリスマスを皆様方と共に迎えられますように。(伊達 暁子)



《児童養護施設 神戸真生塾》

夏休み、フィリピンのワークキャンプ

高等学校二年 坂本 遥



私が今回のワークキャンプに参加して驚いた事は、私達とフィリピンの生活が予想以上に違う事でした。

ワークキャンプに出発する何日も前から体調不良が続いて、フィリピンに無事行けるか心配でした。カガヤン・デ・オロに着いたときは、大雨で、冷たい水で、トイレの便座は無く、初日から本当に心配でした。小学校での作業が始まった時、腹痛で作業に取りかかる事が出来ませんでした。フィリピンの子

どもや、フィリピン人キャンパーの人たちに話しかけられても、英語が分からず、話は続かずに、気がつけば自分から話しかける事も出来ませんでした。私のパートナーのMayが困っている事も、全く知りませんでした。

ホームステイに行く前日に、Mayが教えてくれた、自己紹介しか話せないの、本当に心配でした。Mayの家に着いて、どうしようか迷っていたら、Mayの家族の方たちが、笑顔で迎えてくれたのが、嬉しかったです。

翌日からは、作業に取り掛かる事が出来ました。小学校の子ども達や、日本人のキャンパーと、折り紙をしたり、バレーボールをしたり、今までコミュニケーションを取れなかった分、たくさん話しかける事ができて嬉しかったです。

また、カガヤン・デ・オロを観光したときは、未曾有の雨だったけど、初めて洞窟に入った事

や、土曜日のミサでは、あんなに本格的な礼拝を経験した事が今まで無かったので、経験できて良かったです。私は、事前研修の時に夢が見つかっていないので、このワー

高等学校一年 國弘 瑠利子

フィリピンワークキャンプは終わりました。たくさん美しい思い出と、服に残ったわずかなペンキの跡を残して。

フィリピンには、日本とは違った言語があり、文化があり、匂いがありました。

私は最初、その言語の違いに苦戦し、文化の違いに考えさせられ、匂いに馴染めませんでした。

しかし、一週間をフィリピンで過ごすうちにそれらは母国のものよりも素晴らしく感じられたのでした。

フィリピンの人たちの第一印象は、英語がペラペラということでした。私にとって英語とは、読んだり書いたりするものだった。

クキャンプの活動を機に、夢を持てたら良いと話しましたが、まだ具体的な夢は見つかっていません。でも、ワークキャンプで経験した事を活かせる職業に就きたいと、強く思いました。本当に今回のワークキャンプでは、スタッフの方に大変迷惑をかけたと思います。本当に、良い経験が出来たことに感謝しています。

たので、話すことがいかに難しいかを感じ知らされました。言いたいことが上手く表現できず、もどかしくてたまりませんでした。でも、頑張つて話すうちに少しずつ思いを伝えられるようになりました。私の話した英語が、フィリピンの子にわかってもらえたときは感動しました。

語学の楽しさとは本来こういうところにあるのかもしれないと思いました。

それから、私がフィリピンで気に入ったところは、うまく言えないけれどとにかく自由であるところでした。また、日本人は他人と一定の距離を置くところがあるけれど、フィリピンの人にはそれが無いと感じ

ました。そう考えると、日本の文化はどうも形式にとらわれすぎているような気がします。そんなことに気付くことができたのも、このワークキャンプのおかげでした。

お金や物をたくさん持っていることを「豊か」と言うのなら、フィリピンの人たちは確かに貧しいと言わざるを得ないでしょう。しかし、欲望が充足しているという状態を「豊か」と言うのなら、つましい欲望しかないフィリピンの人たちはとても豊かだと思います。

私は今まで、日本という豊かな国に生まれ育ちながら、その豊かさを実感したことはあまりありませんでした。でも、もっといろんなことに感謝しないと、いけないと、帰国してから思いました。





# 一八年の感謝を込めて

神戸常盤女子高等学校三年 黒沢 咲子

「神戸真生塾」で過ごした私の一八年間は、楽しいことも悲しいこともたくさんありました。真生塾での思い出は数え切れないほどあります。キャンプに納涼大会、バレーボール大会や子ども会、クリスマス祝会などどれも本当に楽しかったです。

そしていつも心配して下さり相談にも乗っていただき、テスト期間中には勉強も教えて下さった黒田姉さん、森本姉さん、上田姉さん、岡田姉さん、金岡姉さん、李姉さん、毛利兄さんや竹原兄さんには大変感謝しています。特に黒田姉さんと森本姉さんには、たくさんご迷惑をお掛けしました。

黒田姉さんは唯一、心から本音で話し合え信頼の出来る人でした。仕事が終わっていないのに聞わず、遅くまで話を聞いてくださいました。バイト探しの時には一緒に探していただき、就職の時には

面接の練習を真剣に付き合ってくださいました。また、時々とても美味しい紅茶を作ってくださいいただき、リフレッシュして頑張ることが出来ました。数え切れないほど感謝しています。

森本姉さんとは初めの頃は喧嘩ばかりで話さない時期もありました。しかし、お互い様々なことを乗り越えたからこそ、今こうして普通に話し合える時が来たんだと思います。

他にも多くの方々に迷惑を掛けてしまいました。今は全ての人に感謝の気持ちでいっぱいです。

そして四月から、有馬兵衛向陽閣の調理場で勤めさせていただくことになりました。今までの生活とは全く異なるとしても大変になると思いません。少しでも早く仕事に慣れるよう一生懸命努めさせていただきます。

最後になりましたが女子フ

ロア、男子フロア、幼児フロア、小規模フロア、真生乳児院、食堂や事務所の職員の方々、富川施設長、そして神戸真生塾の子ども達、本当に有難うございました。共に笑い共に泣いた神戸真生塾での素敵な

一八年間の思い出は、一生忘れません。これからもご迷惑をお掛けすることもありますが、何事にも一生懸命頑張りたいと思うので宜しくお願いします。

## 今後の課題と目標

兵庫県立東雲高等学校三年 尾上 史生

僕が社会人として頑張ることとは、まず基本となる生活です。今までは周りの方々から食事等、身の回りのお世話をしていたいていました。これからは全て自分自身でこなしていかなければなりません。

そして気持ちの面ですが、これまで僕は困るとすぐに周囲の方々に頼るところがありました。その甘い性格を直し、社会人として良いスタートを切れるように頑張っていきたいです。

また、社会人として自立をするためには働いて生計を立てなければなりません。お小遣いをいただいたり、アルバイトをして好きな物を購入するのではなく収入で生活をしていきます。家賃や光熱費の支払いや、更には貯金もしなければなりません。今までの様に手元にあるお金を全て使うのではなく、使い道を計画的に考えなければなりません。

こんな僕が生計を立てるために選んだ職業は農業です。自身で栽培したお米や野菜を皆さんに食べてもらいたく、農業の第一線で働く「若き農業者のリーダー」になります。しかし農作業は楽な仕事ではなく、皆さんの想像以上に大変な仕事です。

数ある職業の中から、僕がこの分野を選んだ理由は三年前の夏、滋賀県の近江八幡市

で農業をされている方に出会ったからです。

その方の名は中里さんといいますが、彼は二十代前半でその土地とは関係の無い出身者でした。それを聞き僕は「本当にこの人に農作業が出来るのだろうか」と思いました。

しかし中里さんは農作業の手際が良く、一番驚いたのは農業に頼っていなかったことでした。彼が栽培した野菜を食べてみると、どれもとても甘かったのです。驚いていたところに中里さんが、「この野菜はどれもとても甘いだろ、これが野菜本来の味だ」と言われたことが印象に残っています。

僕はその時、野菜本来が持つ美味しさに惹かれ、将来、この様な野菜を自分自身で栽培してみたいと思うようになりました。

実習は三日間だけでしたが、将来、農業を必ずしたいと強く思うようになったのです。そして四月からは、無農薬でミネラルに着目した野菜を栽培するべく、三木市の農場で勤めさせていただきます。これからも応援、よろしくお願ひします。



《児童養護施設 神戸真生塾》

そびゆのこぶやまき

☆ 「〇〇ちゃんとバリカ  
ンするねん！」

「割り勘」の間違いで  
した。

(Nちゃん・十歳)

☆ 保育士の髪留めを見  
て、

Kくんは、「ちくわや！」  
と言いました。

お腹が空いていたので  
しようね。

(Kくん・三歳)

☆ 「それって、トップマム  
ネムー プヤね。」

ヒップマグネムープ  
(磁気治療器)をいつ  
もこう呼んでしまうM  
ちゃんです。

(Mちゃん・十歳)

☆ 赤ちゃんを見ている  
子どもたちに、

「みんなもあんなにか  
わいかったんよ」と保  
育士が話すと、

Yくんはすかさず

「おれは、今もかわい  
けどな！」。

(Yくん・十二歳)

☆ 街で、子どもの銅像  
を見かけたSちゃんが、

「あれって何？」と言  
うと、

Mくんは、

「あれは、悪者の魔法  
で石の姿にされた子ど  
もやで」と力説。

(Mくん・六歳)

☆ 保育士が「ごぶとりじ  
いさん」のお話をし  
て

いました。しかし、途  
中から「おむすびころ  
りん」と混乱し、ねず  
み

を登場させてしまい  
ました。

すると、KくんとHく  
んは、「おむすびころ  
りん」に変わってもい  
いから、お話しして！」と  
言ってくれました。

(Kくん・六歳)

(Hくん・六歳)



これからのケアワーカーに  
期待するもの

中村純一

今年度で私は退職となる。

実に三十九年間も神戸真生塾  
で働かせていただいた。その間  
出会った子どもたちと保育士や  
指導員のお姉さんやお兄さん、  
栄養士さん、心理士さん、施設  
長さん、事務所やロータリー子  
どもの家、乳児院、さらに保育  
園の方々の顔が走馬灯のように  
頭に浮かんでくる。たくさんの方  
々との思い出の一つ一つが、  
感傷を抱かせずにはおれない。

しかし、センチメンタルな気  
持ちに浸っていても、その出会  
いに感謝を表すことにはならない。  
小生自身が出会った人々から学  
んだことが、これからのケアワ  
ーカーが目指すことに繋がれば  
と、以下に収斂した。それらを、  
私からの謝意としたい。

一、生活支援とは、お互いの関  
係作りが前提。できて当たり前  
の事もその子ができたときは、  
共に喜ぶ。また、悲しんでいる  
ときは、その子どもの感情に寄  
り添うこと。

一、各々の児童が持っている能  
力や可能性をその児童が最大限

生かし、具現化(自己実現)す  
るように援助すること。

一、「ホットなハートとクール  
なブレイン」、すなわち温かく  
思いやりのある感性と、子ども  
のニーズを冷静かつ客観的に把  
握する理性を磨くこと。

一、「転移・逆転移」を認識し  
ていて、それを子ども最善の  
利益に駆使すること。

一、「自己覚知」の努力を継続  
し、ケアワーカー自身の長所  
を「自己活用」へ導くこと。

一、子どもとの愛着関係の再形  
成。安定した愛着とは、この世  
には絶対に自分を裏切らない他  
者がいるという確信とそれに基  
づいた信頼感や安心感。その愛  
着を、その子に保持させること。

一、施設の職員一同とその建物  
や家具、室内装飾が、子どもた  
ちにとって「癒しの器」あるい  
は「愛着の器」となること。

以上の七項目を、職員諸氏お  
互い同士が肯定的関係を作りつ  
つ、日々の生活の中で、具体的  
に実践されていくことを望んで  
いる。

一、各々の児童が持っている能  
力や可能性をその児童が最大限

一、各々の児童が持っている能  
力や可能性をその児童が最大限

一、各々の児童が持っている能  
力や可能性をその児童が最大限

一、各々の児童が持っている能  
力や可能性をその児童が最大限

一、各々の児童が持っている能  
力や可能性をその児童が最大限

一、各々の児童が持っている能  
力や可能性をその児童が最大限



《保育所 真生きりきり保育園》

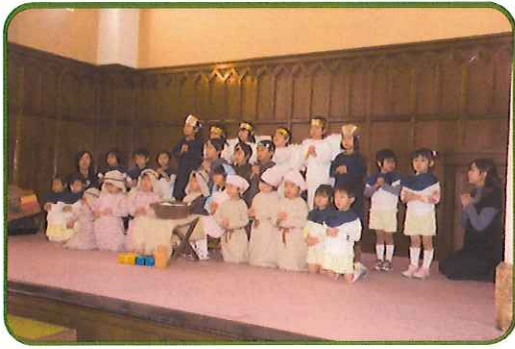
クリスマス会

聖誕劇の練習をみんなで一生懸命やってきました。四歳児は初めての役にみんな嬉しい気持ちとドキドキがあつたようです。五歳児は以前とはまた違う気持ちで取り組んでいたようです。三歳児は四・五歳児のいつもと違う様子に驚きながらもどんなことをやっているかはとても気になるようで、よく見ていました。

練習の回数を重ねるごとに、台詞がしっかりとと言えるようになってくると、遊んでいる最中に子どもたちも同じように言っていることもありました。アドベント・カレンダーをめくる時にも「お！これは羊飼いや」と言ったり、次の日には別の物が出てくると「これは〇〇！」と言い、みんな楽しんでしているのが伝わってきました。自由遊びの中でもクリスマスの絵本を選ぶことが増えていて、順番を待っているお友だちもいるくらいでした。四・五歳児の

子どもたちは役で台詞を言う中で、自信を持ったり、それを見て三歳児の子どもたちは憧れを持ち、自分自身が次のクラスに進級した時の期待を持っていてくれるといいなあと思います。これからの様々な遊びを通して楽しんでいきたいと思えます。

そらグループ(三・四・五歳縦割り)担任 山口 郁恵・藤原 陽子



クリスマス会はいかがだったでしょうか。子どもたちのかわいい姿をみていただけたのではないかと思います。1歳児もぐみの子どもたちはうたがとつても大好きです。すべてをきっちりとうたっている訳ではありませんが、一人ひとりがそれぞれにうたうことを楽しんでくれています。一緒にうたをうたう時に出てくる子どもたちの自然な身体の動きがとてもかわいいです。きらきらしていて素敵です！クリスマス会でうたった「きらきらぼし」も実は夏頃よりうたっていたうたでした。初めは二歳児クラスの子どもたちがうたっている姿を見ていただけだった子どもたちでしたが、少しずつ声が聞こえ、身体が動きはじめ、今では大好きなうたの一つとなっています。

美智子

一歳児クラス担任 藤原

十二月のりんごぐみは運動会の「アチョーパワー」を維持しつつ、元気にクリスマス会に向けて過ごすことができました。聖誕劇は、子どもたちにとつては「雲の上のことだったのに…」というような意識から、次第に「ぼくは〇〇の役」「わたしは〇〇の役」と自分らしく聖誕劇に親しんでいっているようでした。初めて衣装を着た日は、お互いに「かわいい！」「似合ってる」「本物みたいやあ！」と言いつつ合っていました。練習していく度に、台詞も自信を持って言えるようになりました。神戸教会ではいつもの賑やかさが息をひそめ、キリッとした表情もみられることもあり、新たな子どもたちの一面を垣間見させてもらいました。

でも見ていただけたらと思いい、子どもたちと相談しながら取り組みました。運動会の頃から少しづつお友だちと協力する、力を合わせることに楽しさを感じてくれていました。そこで絵描きうたをみんなで描くことを提案しました。はじめは個々にサンタさんを描いていたところ、「交替ばんこでしようよ」と声があがり、ワツと全員が盛り上がりました。そして、あのリレー方式が決まりました。

みんなで順調に練習を重ね、予行の一回目を終えた時、私の声がだんだん出なくなってしまうました。子どもたちに相談しました。当初、絵を描く時は私がうたう予定だったので、「ごめんね。何か声が出にくくなって、このままクリスマス会も出なかつたらどうしよう…」と伝えました。ですから、当日までの数日：つまり数回の練習であの「お絵描きサンタ」が仕上がったんです。

子どもたちの力に助けってもらったとともに、楽しさを共有させてもらい、最高でした。

みずき

四歳児クラス担任 森本



皆様のご意見、ご要望をお聴きしています。

神戸真生塾苦情処理委員会

- 苦情受付担当者 難波美智子(子ども家庭支援センター  
ロータリー子どもの家 センター長)  
森 みずき(真正きらきら保育園 主任保育士)
- 苦情解決責任者 富川 和彦(児童養護施設 施設長)  
綿谷 栄子(乳児院 施設長)  
上杉 徹(保育園 園長)
- 第三者委員 森光 規之(当法人 監事)  
中村 悦子(主任児童委員 中央区山手地区民生委員児童委員)
- 苦情受付件数 平成23年度(11月より2月末まで) 4件

ロータリー子どもの家は、児童福祉法に基づく児童家庭支援センターとして、神戸市から認可を受けています。  
二〇〇五年度の四月より、従来の活動とともに、子どもと家庭についての専門相談機関として、働いています。



子育てホットライン(相談専用)

TEL.078-341-649

神戸真生塾子ども家庭支援センター  
(ロータリー子どもの家)

Homepage <http://www.rotary-kodomonoie.org/>

子育てに  
困った時は  
先ず電話!

毎日、午前9時〜午後6時、  
緊急のご相談は夜間もOKです。

《編集後記》

【あいうえお順】

投稿して下さった文章を読みながら、私自身、常に新たな発見がありました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございます。

(有吉)

広報誌委員をさせていただきながら、子どもたちの成長ぶり、笑顔の数々を改めて感じる事ができました。皆様にも、その様子が少しでも伝わったなら、幸いです。

(伊田)

今回も皆様に広報誌をお届けできることを嬉しく思います。広報誌を通じて、子どもたちの生活を感じていただき、子どもたちに心を寄せていただけたらと思います。

(金岡)

この一年間、子どもたちの様子をお届けしながら、子どもたちそれぞれに成長を感じることができ、嬉しく思っています。来年も子どもたちと共に成長し、その様子を皆様にお届けできたらと思っています。

(山本)

皆様、今年一年間の広報誌を読んでいただきありがとうございます。来年もさらに内容を充実させ、喜んでいただける広報誌を目指しております。

(増本)